

建設業 46 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

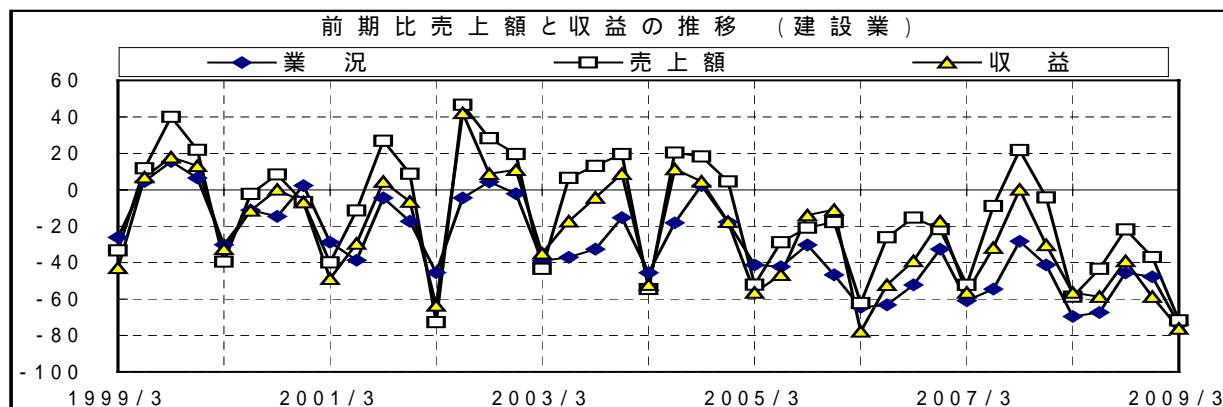
景 況

DI 値 の推移	7~9 月 期実績	10~12 月 期実績	1~3 月 期実績	4~6 月 期見通し
業 況	-45.6	-47.8	-74.0	-36.9
売上額	-21.8	-37.0	-71.8	-4.3
収益	-39.2	-58.7	-76.2	-15.2

今期の業況判断DI値は 74.0 と、前期比悪化し 26.2 ポイント低下、過去 10 年間の中で最も低い水準となった。地区別にみると、様似地区で横ばいとなった以外全地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 71.8、収益が 76.2 と、前期比マイナス値が拡大し悪化、

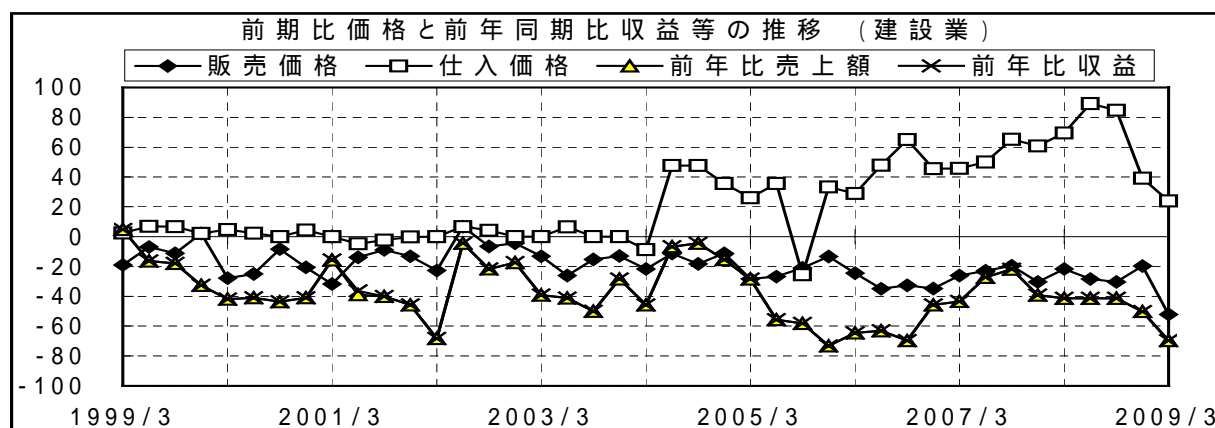
それぞれ 34.8、17.5 ポイント低下した。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9 月 期実績	10~12 月 期実績	1~3 月 期実績	4~6 月 期見通し
請負価格	-30.4	-19.6	-52.2	-21.8
仕入価格	84.8	39.1	23.9	15.1

請負価格判断DI値(52.2)は、前期比マイナス値が拡大し 32.6 ポイント低下、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DI値(23.9)は、前期比プラス値が縮小し 15.2 ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9 月 期実績	10~12 月 期実績	1~3 月 期実績	4~6 月 期見通し
残業時間	-19.6	-12.9	-23.9	-10.9
人手状況	23.9	6.6	21.7	23.9

残業時間判断DI値は 23.9 と、残業時間が減少したとする企業割合が増加し、前期比 11.0 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 21.7 と、前期比プラス値が拡大し 15.1 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

設備投資の動き

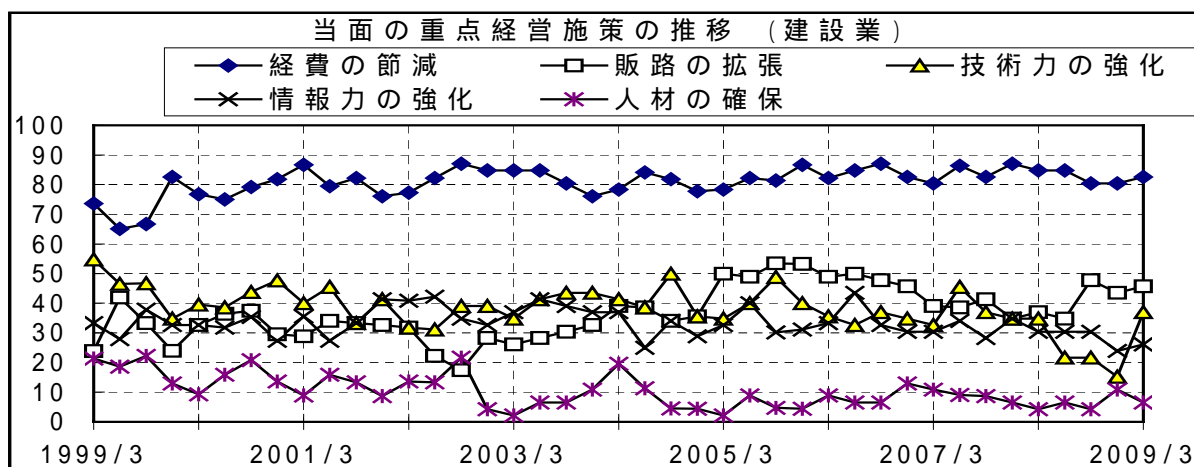
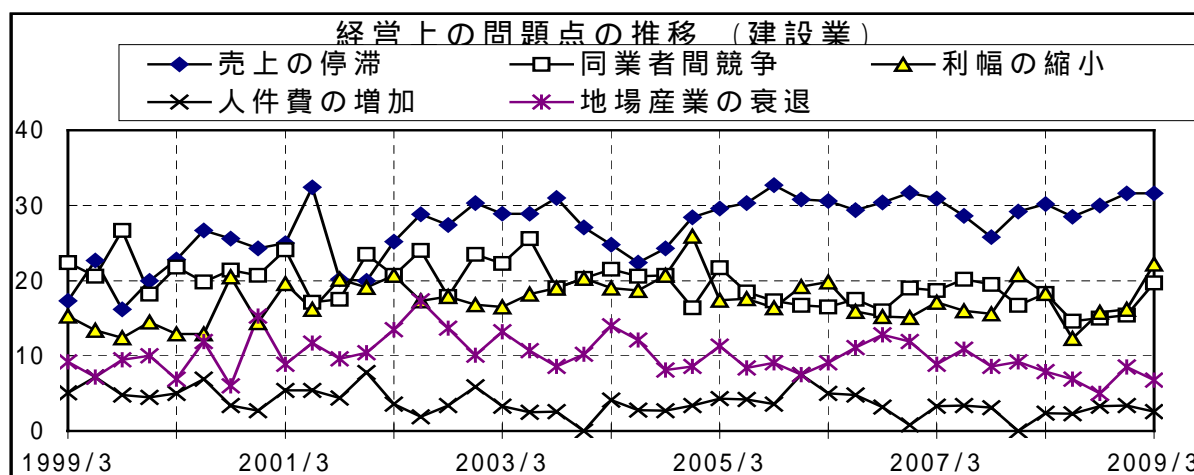
設備投資の充足感を示すD I値は8.6と、前期(0.1)のマイナス値からプラス値に転じ8.7ポイント上昇、過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は87.0%と、前期(82.7%)から4.3ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は13.0%と、前期(17.4%)比4.4ポイント低下し、件数で前期の8社に対し6社の実施となった。また、来期予定では当期比横ばいの6社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ31.6%、次いで「利幅の縮小」22.2%、「同業者間との競争」19.7%、「材料価格の上昇」、「地場産業の衰退」6.8%の順に続き、前期との比較では「利幅の縮小」、「同業者間との競争」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ82.6%、次いで「販路を広げる」45.7%、「技術力を強化する」37.0%、「情報力の強化」26.1%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(21年4~6月期)の予想業況判断D I値は 36.9と、今期(74.0)実績比37.1ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が 4.3(今期 71.8)、収益が 15.2(今期 76.2)と、それぞれマイナス値が大幅に縮小し、今期実績比67.5、61.0ポイントの上昇見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I値は、請負価格が 21.8(今期 52.2)と、今期実績比マイナス値が縮小し30.4ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は15.1(今期 23.9)と、今期実績比プラス値が縮小し8.8ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

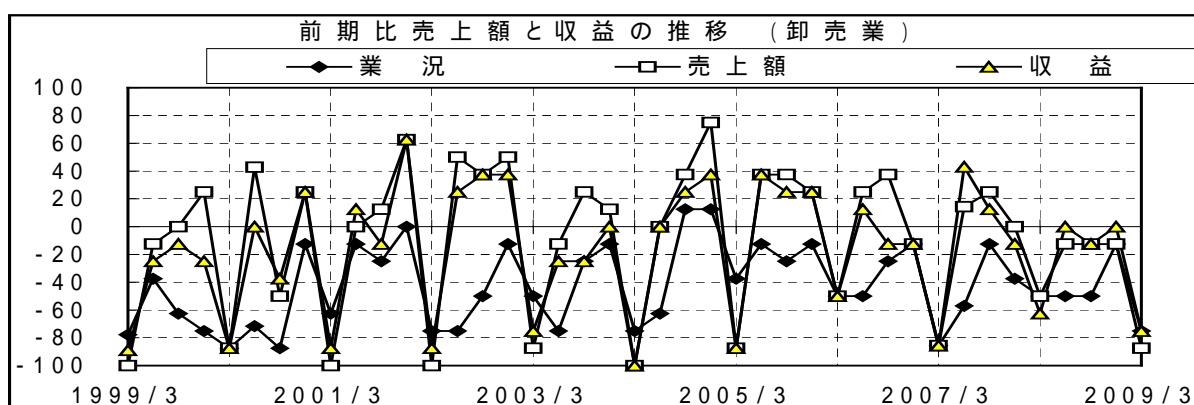
卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業況	-50.0	-12.5	-75.0	-37.5
売上額	-12.5	-12.5	-87.5	12.5
収益	-12.5	0.0	-75.0	25.0

今期の業況判断DI値は 75.0 と、前期比大幅に悪化し 62.5 ポイント低下、過去 10 年間で 3 番目に低い水準となった。地区別にみると、静内地区が横ばい、それ以外の浦河、三石、様似地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 87.5 と、マイナス値が拡大、収益が 75.0 と、ゼロからマイナス値に転じそれぞれ大幅に悪化、75.0 ポイントそれぞれ低下した。

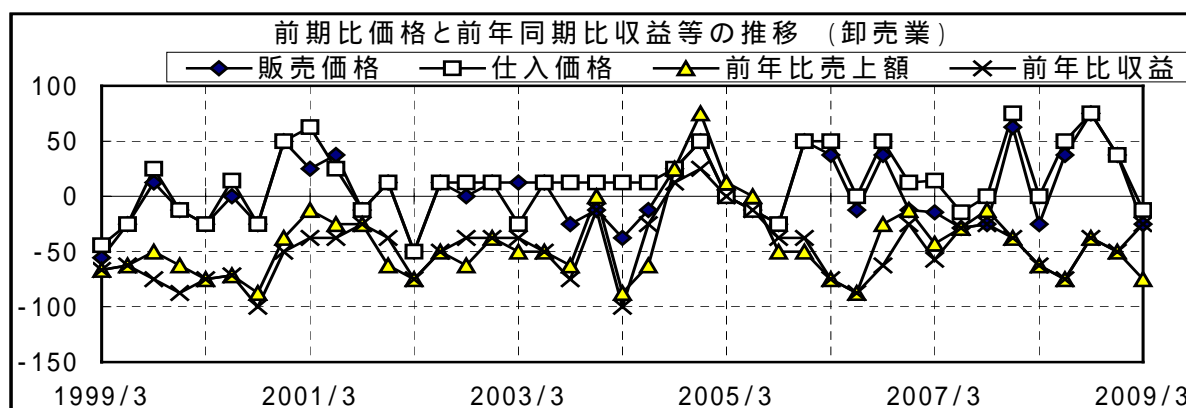


価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	75.0	37.5	-25.0	25.0
仕入価格	75.0	37.5	-12.5	25.0

販売価格判断DI値(25.0)、仕入価格判断DI値(12.5)は、前期比プラス値からマイナス値に転じそれぞれ 62.5、50.0 ポイント大幅に低下、価格低下基調を強めている。業種別にみると、農産・水産物が販売、仕入価格判断DI値とともに低下

し、食品は販売価格判断DI値が横ばい、仕入価格判断DI値で上昇している。



雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	0.0	12.5	-12.5	-12.5
人手状況	12.5	12.5	25.0	12.5

残業時間判断DI値は 12.5 と、残業時間が減少したとする企業割合が増加し、前期比 25.0 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 25.0 と、前期比プラス値が拡大し 12.5 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

設備投資の動き

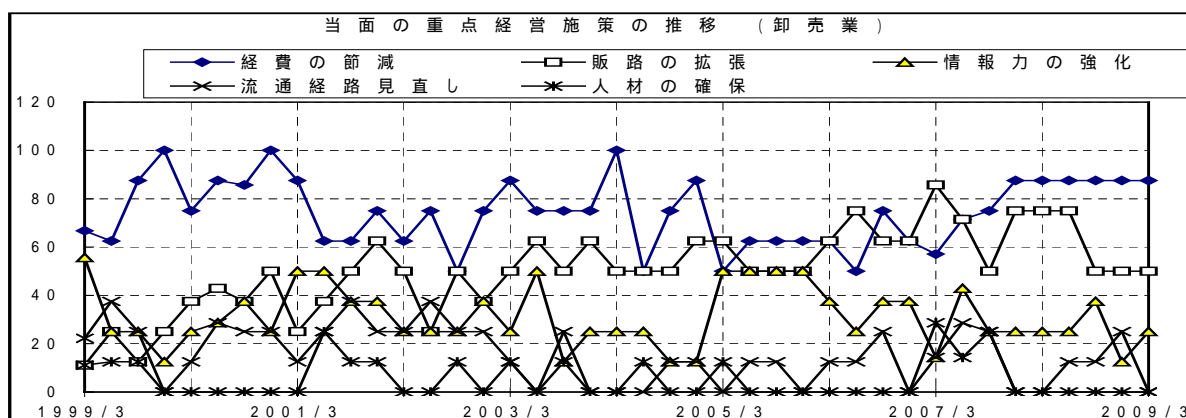
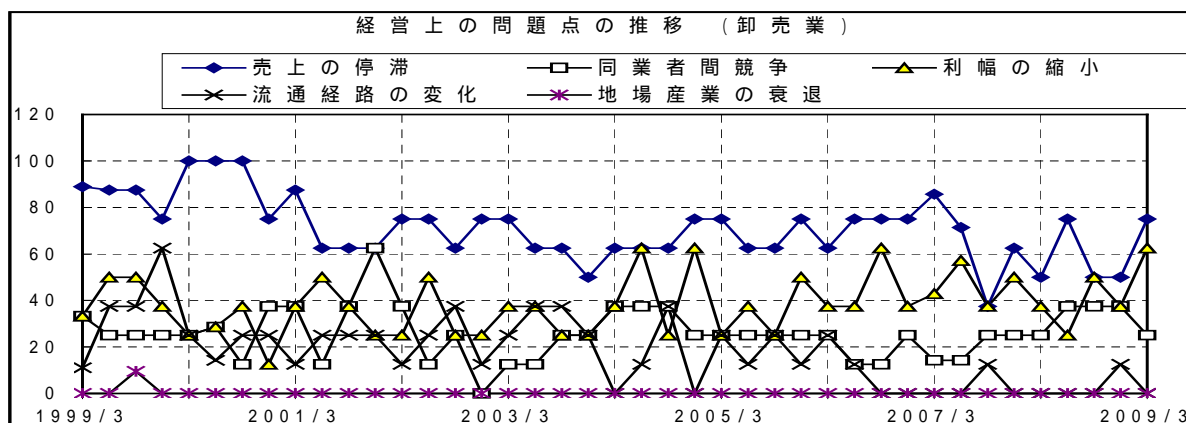
設備投資の充足感を示すD I値は12.5と、前期(0.0)のゼロからプラス値に転じ12.5ポイント上昇、過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は87.5%と、前期(100.0%)から12.5ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は25.0%と、前期(12.5%)比12.5ポイント上昇し、件数で前期の1社に対し2社の実施となった。また、来期予定では当期比1社減の1社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ75.0%、次いで「利幅の縮小」62.5%、「同業者間競争」、「取引先の減少」、「仕入先値上げ要請」25.0%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「利幅の縮小」、「仕入先値上げ要請」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産物、食品ともに「売上の停滞」、「利幅の縮小」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ87.5%、次いで「販路を広げる」50.0%、「情報力の強化」25.0%の順となっている。業種別にみると、農産・水産物が「経費の節減」、食品が「経費の節減」、「販路を広げる」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(21年4~6月期)の予想業況判断D I値は37.5と、今期(75.0)実績比37.5ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が12.5(今期87.5)、収益が25.0(今期75.0)と、それぞれマイナス値からプラス値に転じ、今期実績比それぞれ100.0ポイントの大幅上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が25.0(今期25.0)、仕入価格が25.0(今期12.5)と、今期実績比マイナス値からプラス値に転じそれぞれ50.0、37.5ポイント上昇、価格上昇基調が強まる見通しとなっている。